ティタイム

三月は卒業の時期である。生徒は仲間との別れを惜しみながら新たな旅立ちに夢と希望を抱き、胸を張って中学校を巣立っていく。その姿に保護者、地域の方々、教職員は門出を祝福し、「頑張れ」とエールを送る。

卒業していく生徒のこの姿が教員生活を続けていくうえでの大きなエネルギーとなってきた。

生徒は卒業式で自らの思いを歌に乗せて表現する。卒業式で歌った曲を振り返ってみる。

ご年配の方は、まず「仰げば尊し」「蛍の光」を思い出すことでしょう。その後、私が教員になってからは「巣立ちの歌」「大地讃頌」などが一般的に歌われていました。

卒業式の歌は生徒が選ぶ場合と何代も代々歌い継がれている場合がある。20年くらい前からは「旅立ちの日に」が歌わることが多かった。

ある中学校の校長先生と教員が作詞・作曲した曲であるためか生徒が強く共感し、思いを込めることができるようである。

生徒は歌にどんな思いを乗せるのか。それぞれの心に浮かぶ光景をそれぞれの形で思いにしていく。

## 「歌のちから」

町立屈足中学校長　塚原雄二

うれしいことだけではない。苦しい時やつらい時、仲間や家族などの温かい励ましや心に触れ、感謝の気持ちを伝えていく。

式に参加している誰もが、その飾らない心と一生懸命な姿に心を揺さぶられ胸を熱くし涙する。

生徒にとって一生思い出に残る歌である。

教職員にとってもイントロが流れてきただけでその時の光景と共に感動した記憶が蘇ってくる。

「歌のちから」なのかと感じる。

3月15日は屈足中学校の卒業式となっている。

今年は第70回の卒業式となり、卒業生は今年も含めて、４０１４人となる。

まさに、諸先輩方が培ってきた歴史を感じている。

きっとそれぞれの時代に卒業された同窓生の皆さんも中学校時代の卒業式の思い出は万感の思いがあるに違いない。

今年の卒業式の歌は「そのままの君で」となります。

第70回卒業式が歴史の区切りとして涙と感動にあふれる式となることを切望してやまない。

## スポーツ新聞ご購読のご案内

道新スポーツ

日刊スポーツ NIKKAN SPORTS

スポーツ報知 SPORTS HOCHI

スポニチ

野球・サッカー・大相撲・芸能など充実の紙面のスポーツ紙購読しませんか。
当販売所では月決め購読以外、例えば大相撲の15日間短期間の購読でも宅配いたしております。
お気軽にお申し付けください。

0156－65－3111
屈足道新販売所まで


## こちら屈足在所

Ｎｏ21

鈴木進司　巡査部長

### 「特殊詐欺被害防止」

屈足地区死亡事故ゼロの日５０００目達成まであとわずか

‘３月22日をもって屈足地区交通死亡ゼロの日５０００日が達成されます。

その偉業達成に向けて今一度交通事故防止に努めて下さい。

今年に入り屈足地区での人身事故は１件も発生していませんが、北海道全体的にみると17人もの多くの方が亡くなってしまっているという危機的な状況にあります。

屈足地区での事故状況としては、１月中の物損事故が５件発生しており、これも前年比から見ると３件増えています。

その交通事故のほとんどがスリップによる単独事故がほとんどです。

冬道運転はスピードを出しすぎない、エンジンブレーキを活用する、悪天候時や路面状況が悪い日の運転をさける等です。

それらに気を付け交通事故防止に努め、屈足地区死亡事故ゼロの日５０００日達成させましょう！

## 本

## 送料無料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。
**今読みたい話題作！欲しい本をお取り寄せ！**
気軽にお問い合わせください。
通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。
**※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。**


## 道新二月号ポケットブックの御案内です。

▼2月号＝「ワンプレートでバランスごはん」主食やおかずを1枚の皿に盛り付ける「ワンプレートごはん」は、和風、洋風、中華風とおかずを選びません。常備菜を組み合わせると時短になり、盛り付け方や彩りを工夫することで、見た目も華やかな仕上がりになります。組み合わせるメニューによって、バランスの良い食事になるので、日々の献立に取り入れていただきたい食べ方の提案です。ぶんぶんクラブのページは「冬も刺激的に！カレー特集」で、帯広の「ビスターレビスターレ」などを紹介。など

配布済み。

ポケットブック次号予告「親子でクッキング」

子どもが中心になって作れるバラエティー豊かなレシピをルビ付きで紹介します。料理をスタートする前にチェックしておきたい項目や計量スプーン・計量カップの使い方をはじめとした調理器具の数々、包丁の使い方や材料の切り方の種類についても写真付きでわかりやすく伝えます。

親子でキッチンに立ち楽しくクッキングする際に使って欲しい1冊です。

お楽しみに。

連続小説

## さだめ

赤池　武臣

＜8＞

「え、では、ここで新郎新婦より、御両親に花束贈呈でございます」

司会者の澄んだ声が、広い会場に響き渡った。ナレーションが流れ、あちこちからすすり泣く声が聞こえてきた。

「幸江を、よろしく頼みます」両手で新郎の手を握り、幸光は幾度もその手をゆすった。握りしめた手の甲に、十八年前の幸江の面影が、大粒の沼となって跳（は）ねた。

「お父さん。さ、席に坐って。幸江が困った顔で、お父さんを見ているわよ」雪絵にうながされ、幸光は席に坐った。

それでは次に…司会者の声が、遠く潮騒のように聞こえる。

閉じた眼の裏に、身内だけのささやかな雪絵との結婚式が浮かんできた。

粗末なテーブルの上に載った、どこか不釣り合いな一匹の鯛。

不揃いの瓶に入った濁（にごり）酒と焼酎（しょうちゅう）。調子はずれの祝い歌。どれもが懐かしく、色あざやかによみがえってきた。が、それからの貧困と苦悩を思うと、たちまちその鮮やかな色も灰色にくもった。幸光は慌ててかぶりを振って過去を打ち消すと正面をみすえた。

あふれる程の人々が、あふれるほど御馳走（ごちそう）の載った丸いテーブルをそれぞれ囲み、楽しく話に興じている。何もかもが、きらびやかに輝いて見えた。

が、幸光には誰もがつとめて明るく振る舞い、いまを満喫し、一歩この会場から外に出れば思い出すであろう、苦痛の不安を、必死に忘れようとしているようにも思えた。

「では、アルコールもぼちぼち回って来たようですので、ここで余興に入りたいと思います。まずはアカシヤの席の・・また司会者の声が響いた。

それを機にどっと会場がどよめき、一斉に拍手が起こった。

それを待ちかねていたように、酒で赤くなった顔をほころばせながら、酒瓶を片手に、人々が幸光の席におしかけて来た。

幸光は席を立つと、深ぶかと頭を下げた。

完